

令和4年度 青梅市立第一小学校 第2回学校評価シート

令和5年3月

＜学校経営方針の重点＞

- 1 確かな学力の育成 2 豊かな心の育成 3 健康な体の育成 4 家庭・地域等との連携

＜評価基準＞ A：達成できている B：ほぼ達成できている C：あまり達成できていない D：達成できていない

項目	経営目標	本年度の重点	具体的な方策	評価 (%)			分析結果	改善策	学校関係者評価記入欄		今後の方向性
				児童	保護者	教職員			評価	コメント	
確かな学力の育成	自ら進んで学習に取り組む子を育成する。	確かな学力を身に付けさせる教育の推進。	朝学習の計画的な実施やICT機器の活用を含めた授業改善の推進に努め、基礎的・基本的な学習内容の習得を図る。	A	32%	42%	38%	<ul style="list-style-type: none"> 朝学習やICTの活用は効果的に実施できたが、基礎基本の定着には依然として課題がある。 短時間で集中しやすい朝学習が確保されているのは大変良いことであるが、児童のC・D評価が25%と高く、課題を残す。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 朝学習の活用や指導内容を明確にし、児童の負担にならないよう基礎的・基本的な学習内容の習得を目指す学習の時間として活用していく。 児童によってICTの活用には差があるので、個別指導の時間を増やしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝学習は、学習の基礎・基本の定着を図ることを目的としている。研究推進部を中心に全クラスが取り組み、今後も引き続き実施していく。 ICT機器操作技術の最低ラインは押さえ、学習に差が生じないように配慮・指導していく。 達成感が高められるよう授業改善に努め、自己肯定感も高めていく。
				B	42%	43%	52%				
				C	17%	3%	10%				
				D	8%	2%	0%				
				E	0%	10%	0%				
				平均							
			朝読書や「チャレンジ読書」等の読書活動、考えを記述し、意見交換する学習活動を通して、自ら課題に向き合い、進んで学習に参加しようとする態度を育てる。	A	37%	45%	43%	<ul style="list-style-type: none"> 朝読書が落ち着いた生活・学習態度につながった。 読書後に感想を書くことや本の紹介など言語活動として、自主的に取り組むことができたが、チャレンジ読書への取り組みは今一つである。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き読書活動・言語活動に取り組んでいく。 チャレンジ読書に意欲的に取り組ませるため、目標の設定を読んだ量について、スモールステップで評価し、意欲を高めやすいように改善していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 「読書離れ」が叫ばれるようになって久しいが、児童のA・B評価が昨年度より上がっている。「本の福袋」「読書ビンゴ」等、活字に触れさせるための工夫やいろいろな分野へ読書活動を広げさせようとする努力が反映されているものと思う。 目標の設定が高く、次の目標に進みにくい。途中で満足している。
				B	42%	45%	38%				
				C	16%	5%	19%				
				D	5%	1%	0%				
				E	0%	4%	0%				
				平均							
習熟度別指導・chromebook・ステップアップクラス・個別学習等を計画的に活用、実施して、個に応じた指導の充実を図る。	A		45%	18%	<ul style="list-style-type: none"> 教職員のC評価が18%と高く、個々のchromebookの操作技術の差や学習内容の習得状況の差を何とかしたいと思ながら指導している様子が覗かれる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> OJTを通して、実践活動や効果的な指導方法を学び合い、共有していく。 タッチペンの活用や、chromebookを正しく使えるよう教具や指導を工夫していく。 児童の実態に即し、より効果的な学習形態を考え取り組んでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> OJTを通して、実践活動や効果的な指導方法を学び合い、共有していく。 タッチペンの活用やchromebookの効果的な学習方法を模索・工夫し、個に応じた指導ができるように努めていく。 一人一人の児童をよく見て、児童の実態に即したより効果的な学習形態を考え取り組んでいく。 			
	B		42%	64%							
	C		4%	18%							
	D		2%	0%							
	E		7%	0%							
	平均										
豊かな心の育成	明るく素直で、思いやりのある子を育成する。	豊かな心をはぐくむ教育の推進。	「一小さいじめゼロ宣言」やアンケートの取組・異年齢集団活動の活動や情報モラルの指導を通し、いじめゼロに向けた好ましい人間関係を育てる。	A	74%	50%	33%	<ul style="list-style-type: none"> 「いじわる」「からかう」という軽い気持ちがいじめにつながる原因になる事を指導してきたが、完全には浸透していない。 情報関係のトラブルが起きないよう、引き続き指導していく。 ふれあい月間に絡めてなかよしボックス等できるようになってきた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、「いじわる」「からかう」とはどういうことか全教職員で共通理解して、一貫した指導をしていく。 情報関係のトラブルが起きないよう、引き続き指導していく。 ふれあい月間に絡めてなかよしボックス等の取り組みを行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、「いじわる」「からかう」とはどういうことか全教職員で共通理解して、一貫した指導をしていく。 情報関係のトラブルが起きないよう、引き続き指導していく。 ふれあい月間に絡めてなかよしボックス等の取り組みを行っていく。
				B	15%	40%	67%				
				C	6%	4%	0%				
				D	5%	3%	0%				
				E	0%	3%	0%				
				平均							
			「全力あいきつ」の指導、生活目標の周知や学校生活の約束等の指導を徹底して、ルールやマナーを遵守しようとする態度を育てる。	A	63%	45%	33%	<ul style="list-style-type: none"> 教職員に名前を付けて挨拶をするなど、礼儀正しく挨拶する児童が増えているが、全力挨拶に関しては、引き続き指導を重ねる必要がある。 下校後の遊び方についての問い合わせが減少してきたが、一小的生活の約束事をさらに教員・児童・保護者と共有していく必要がある。 生活指導の点で共通理解が深められていない部分を改善していく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 互いに気持ちよくなるようなさわやかな挨拶ができるを目指す。さらに、教職員が他のクラスの児童にも積極的に挨拶をする姿勢を見せ、みんなで挨拶をする雰囲気をつくっていく。 教職員の共通理解を図るため、一小的きまりを月に1回程度生活指導集会において読み合わせをする。筆箱の中身や持ち物については、具体例を示し、分かりやすく提示することで、指導を徹底していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶などよくできている感じがする。外での過ごし方は学年によって差があると思う。家庭と学校の双方で指導しなければ改善は難しいと思う場面もある。 コミュニケーションの基本である「挨拶」が身に付けられると良いと思う。 マナー教育に力を入れてほしい。
				B	27%	44%	52%				
				C	8%	4%	14%				
				D	2%	4%	0%				
				E	0%	2%	0%				
				平均							
「特別の教科 道徳」の授業の充実を図るとともに、全教育活動を通して児童の道徳性を養う。	A		48%	33%	<ul style="list-style-type: none"> 今年度から取り組んでいるSDGs集は、児童の意識を高め、道徳性の向上に繋がっている。 児童の生活ルール・マナー、言葉遣いなどに課題がある。道徳授業の進め方などを教員間で伝え合い学んでいく必要がある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 朝学習で道徳的な話をする活動など工夫していく。 校内のOJTを通し指導法を学び合い、より高い指導方法を学んでいく。 学校生活全般を通して子供たちの良い行動を認め、自己肯定感を高める指導を長期的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内のOJTを通して指導方法を学び合い、スキルアップを図るとともに、より良い指導方法を身につけ、指導していく。 「SDGs」は日本人の倫理観・モラルに通じるもので、資源の乏しい日本においては大事なものである。地域や家庭とも連携し、「SDGs」の浸透を図っていく。 			
	B		42%	52%							
	C		3%	10%							
	D		1%	0%							
	E		5%	0%							
	平均										
健康な体の育成	楽しく運動をし、身体をきたえる子を育成する。	健康な体の育成と体力の向上を図る教育の推進。	「全力そうじ」の取組を通して環境を整えたり、保健指導や感染予防教育を行ったりして、健康的な生活を心がけ、健康の増進に取り組もうとする態度を育てる。	A		53%	43%	<ul style="list-style-type: none"> コロナウイルス感染症対策等を通して、予防に取り組もうとする態度を育てることができた。また健康診断を基にした保健指導にも取り組め、健康に対する意識付けができた。 保健だよりなど、その時々合った情報を発信していたので、指導に役立てることができた。 コロナウイルス感染症予防の観点から身体測定時に指導していたことが、指導ができなくなった。給食時間中に放送で実施したことは大変良かった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> コロナウイルス感染の状況によって、保健指導を変えるのは児童にとって大変良いことである。状況によってはこれからも給食中の放送に引き続き取り組み、児童の健康に対する意識や態度を育てていく。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナの感染状況により、形を変えて様々なことを行っていた。児童達も意識が高まり、進んで感染対策を行っている様子が見えた。 朝食の給食中での放送は、自分の健康を考慮するうえで良かった。 これから脱コロナ化が急速に進み、まだまだ模索の日が続くと予想されるが、引き続きよろしくお願ひいたします。
				B		41%	48%				
				C		1%	10%				
				D		2%	0%				
				E		2%	0%				
				平均							
			避難訓練やセーフティ教室等の指導を通して、自他の安全や生命を尊重する態度を育てる。	A		54%	62%	<ul style="list-style-type: none"> 命の大切さについて日常的に指導してきた結果、子供たちが友達のことを思って行動する姿が見られてきた。引き続き指導していくことが大事である。 様々な避難訓練ができた。また自転車教室も実施し、実践的な学習ができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 例年通りの教育活動ができるようになってきた。コロナウイルス感染状況に合わせて、実践的な学習に取り組んでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> セーフティー教室や自転車教室だけでなく、様々な活動を通して自他の安全や命の尊重について引き続き計画的に実施していく。 コロナウイルス感染状況に合わせて、実践的な学習に取り組んでいく。 教育課程全般の中で、外部講師の活用を進めていく。
				B		38%	38%				
				C		2%	0%				
				D		1%	0%				
				E		4%	0%				
				平均							
校庭の芝生やついじを効果的に活用して、健康・体力の向上を図るとともに、進んで運動する態度を育てる。	A	59%	57%	57%	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で体力の低下が目立ってきた。体力向上を図るための取り組みの改善を行い、より効果的な学習をしていく必要がある。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 芝生・ついじの活用を取り入れたサーキットトレーニング・準備運動を全校一斉運動「一小スタンダード」とし、継続して取り組んでいく。 中休み等、休み時間に外で遊ぶよう声掛けをしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 芝生・ついじの活用を取り入れたサーキットトレーニング・準備運動を全校一斉運動「一小スタンダード」とし、継続して取り組んでいく。 中休み等、休み時間に外で遊ぶよう声掛けをしていく。 虫刺されについては、引き続き注意喚起を続けていく。 			
	B	26%	33%	33%							
	C	10%	4%	10%							
	D	5%	1%	0%							
	E	0%	5%	0%							
	平均										
家庭・地域等との連携	家庭・地域等との連携・協力し愛される学校づくり	家庭・地域等との連携・協力し愛される学校づくり	「家庭学習のすすめ」やICT機器を効果的に活用して、家庭学習の推進と内容の充実を図る。	A	39%	42%	25%	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習が浸透していない。「家庭学習のすすめ」のような冊子を配布するのであれば、年度初めに配布し、活用方法を伝えるなどより効果的な使用方法を模索する必要がある。 chromebookの持ち帰りができるようになるとよい。破損の際の保護者の負担や家庭におけるネット環境が課題である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校便りや学年便りを通して、家庭学習に関する内容を記載し、定期的に家庭学習を呼びかけていく。 破損保障の体制を整えられるように市に要望していき、持ち帰り計画を考えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者の意識が大きく反映すると思う。定期的に家庭学習の大切さを発信し、呼びかける必要がある。 chromebookの活用は家庭差が大きく、学年など通所場所での使用にも制限がある。 chromebookは児童が持ち運ぶには高価すぎる。破損対応も含め、あまり頻りに持ち帰ってほしくない。
				B	34%	46%	60%				
				C	19%	8%	15%				
				D	7%	2%	0%				
				E	0%	2%	0%				
				平均							
			学校行事・学校公開・学校便り・ホームページ等で学校の情報発信し、開かれた学校づくりに努める。	A		56%	52%	<ul style="list-style-type: none"> 学校公開・授業参観・学習発表会など、現状においてできる範囲で様々な取り組みが実施できた。 学校だよりやメールでの連絡など情報発信についても、即時性をもって発信できた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> コロナウイルス感染が収束しない中で、どうすれば更なる取り組みができるか今後も検討し、取り組んでいく。 これからもネットワークを活用した情報の発信の仕方を検討し、より良い情報発信に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校公開・授業参観・学習発表会等、分散やオンラインを活用して児童達の様子を発信するなど開かれた学校づくりに努めていく。 メール発信など効果的に使っていた。 コロナ禍で知る機会が「お知らせ」に限られていたが、少しずつ保護者が参加・見学可能となり良い1年だった。新年度は地域の住民も参加できる機会を増えることを期待する。
				B		39%	48%				
				C		2%	0%				
				D		2%	0%				
				E		1%	0%				
				平均							
地域の施設訪問や人材の活用を推進し、地域の自然・文化・産業についての調べ学習や体験活動の充実を図る。	A		58%	42%	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍も少しずつ落ち着き、多くの活動ができるようになってきた。青梅学で地域人材を活用するなど、地域の人材を活用する活動もできるようになってきた。 実施した行事・活動を次年度以降も確実に引き継ぎ、継続していききたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き多くの外部の方に学校教育にかかわっていただくために、現在お願ひしている講師の方の連絡先を確実に引き継ぐ。 小中一貫で他校の取り組みも情報共有を通して、本校の活動に取り入れ充実を図っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 青梅市は豊かな自然や受け継がれてきた文化・芸術が豊富である。持続可能な開発目標の達成のためにもこれらを伝承していくことが大事と考える。故に引き続き多くの外部の方に学校教育にかかわっていただく方向である。 現在お願ひしている講師の方の連絡先を確実に引き継ぐことはもちろん、いろいろな分野での人材の開発・確保に努めていく。 			
	B		33%	42%							
	C		2%	16%							
	D		1%	0%							
	E		6%	0%							
	平均										